

2018年度第1回選書ツアー参加者の推薦文

感情類語辞典

アンジェラ・アッカーマン, ベッカ・パグリッシ

「感情を表す表現ってどんなものがあるんだろう？」と思い、手に取ったのが選んだきっかけでした。この本自体は小説の書き手が登場人物たちの感情をいきいきと描くために書かれた本ですが、読んでみると自分の感覚や周囲の人々の何気ない仕草や行動などが、全て感情の表現であることに気付いて面白かったです。行動心理学の本としてもおすすめです。

看護学科2年

真夜中乙女戦争

F

著者がSNS上で発信しているポエムや寄せられた質問へのエッジの効いた切り返しが好きで、今回その方が初めて出した小説を選んでみました。物語中には様々な概念や言葉が入り乱れ、一度で内容を理解するのは正直難しいです。それにかなり好みが見られる作品だと思います。

ですが、何度も読むと自分の好きな言葉やシーンがきっと見つかるはずですよ。

私の好きな言葉は、「何をやっても間違えるなら、間違うことにしか愛はない」です。

看護学科2年

老いる勇氣 -これからの人生をどう生きるか-

岸見一郎

『嫌われる勇氣』で知られる著者による新作ということで、今回選んでみました。

“老いること”について、著者は自身の体験や

アドラー心理学も織り交ぜながら、独自の視点で語っていきます。

現代は超高齢社会であり、老いる恐怖や不安は誰もが持っているものですが、読み進めていくと「歳を取るのも悪いことばかりではないのかな」と思えてくる希望の一冊です。

「老いるなんてまだ先の話」と思っている方にもぜひ読んでもらいたいです。

看護学科2年

太陽と乙女

森見登美彦

『夜は短し歩けよ乙女』や『ペンギン・ハイウェイ』など近年メディア化した話題作も多い著者によるエッセイ集。著者本人が『夜寝る前に最適な一冊』と称するだけあって、堅苦しくなくリラックスして気軽に読めるお話ばかりです。

著者の小説の制作秘話や著者の過去のお話など、ファンにとってはたまらないお話がたくさん詰まっています。手に取ってから自分の好きなお話から読み進めてみるのも面白いと思います。

看護学科2年

2018年度第1回選書ツアー参加者の推薦文

九月の恋と出会うまで

松尾由美

ある日、自室の壁の穴から一年後の今日を生きているという人物の声が聞こえた。
「平野」と名乗るその男にはある目的があって…
「書店員が選んだもう一度読みたい恋愛文庫1位」に輝いた、
時空を超えた奇跡のラブストーリー
高橋一生さん・川口春奈さんW主演で年映画化が決定！

健康栄養学分野修士1年

図解仕事の基本社会人1年生大全

北條久美子

～ 社会人1年生になる貴方へ ～
ビジネスメールで…『様？御中？どっち？』
お酒の席で…『どう立ち振る舞う？』
結婚式やパーティで…『正しい服装は？』 etc…
困った時に使える！社会人のための辞書

健康栄養学分野修士1年

青い月の夜、もう一度彼女に恋をする

広瀬未衣

青い満月と沢山の星が映る泉で、星をすくっている少女に出会い、次第に惹かれていく主人公。
少女と出会ったその街には、
「ブルームーンの光が導くところに過去への入り口がある」
という不思議な言い伝えがあった…
京都・嵐山でブルームーンの夜に出会った
運命の恋

健康栄養学分野修士1年

夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く

汐見夏衛

自他ともに認める優等生と自由を顔に張ったような男の子。
何もかもが正反対の二人がたどる軌跡とは。
夜が明けたら一番会いに行きたい人は誰ですか？

健康スポーツ学科3年

2018年度第1回選書ツアー参加者の推薦文

父の逸脱 ピアノレッスンという拷問

セリーヌ・ラファエル

フランスに生まれた少女、セリーヌは、2歳の時に父親の勧めでピアノを習い始めます。最初は30分だった練習時間が1時間になり、3時間になり、次第に父親は体罰を与えるようになりました。臀部をベルトでぶたれたり食事を抜かれたり脅迫されたりとひどい虐待を受ける中で、それでも誰もそのことに気がつきません。この本は、徹底的に魂を凌辱された少女の叫びです。この本に無理に希望を見いだそうとせず、絶望しながら読んでください。

社会福祉学科3年

ののとはな通信

三浦しをん

私立のミッション系の女子高に通うののとはなは、親友同士。ひそかに手紙の交換をし始めたことをきっかけに、様々な秘密を共有しあうようになる。やがて友情は恋愛へと形を変えるが、思わぬ裏切りにより二人の心は離れてしまう。私が幼い頃、年上の小学生のおねえさんから誰にも秘密で口紅をぬってもらったことを思い出しました。そんな、少し背徳的で秘めやかなときめきを思い出させてくれます。醜さと美しさを内包する三浦しをんの世界観に包まれる作品です。

社会福祉学科3年

皆川博子の辺境薔薇館

皆川博子

幻想ミステリー界のカリスマ、皆川博子先生の永久保存版的読本です。皆川先生のロングインタビューをはじめ、豪華寄稿陣のエッセイや精華が載っており、皆川ファンにはたまらない一冊です。私は初めて皆川先生の作品に触れたとき、なんて闇深くて非凡で病んでいる人なのだろう！と思いました。そしてそのイメージは払拭できないどころか、作品に触れるたびに強まっていったのですが、このロングインタビューでそのイメージががらっと一変してしまいました。皆川先生のすべてを知りたいあなたへ、どうぞ手に取ってみてください。

社会福祉学科3年